



岐阜県副知事
神門 純一 Junichi GOUDO

- 平成 7年 4月 自治省採用
同 財政局交付税課
7月 熊本県総務部地方課
- 平成 8年 4月 同 財政課
- 平成 9年 4月 総理府国際平和協力本部事務局
- 平成 11年 4月 自治省財政局準公営企業室
- 平成 12年 7月 同 財政局公営企業第一課
- 平成 13年 4月 鳥取県土木部都市計画課緑地公園室長
- 平成 14年 4月 同 生活環境部環境政策課長
- 平成 16年 4月 同 総務部財政課長
- 平成 18年 4月 同 総務部次長
- 平成 19年 8月 総務省消防庁国民保護・防災部防災課国民保護室課長補佐
- 平成 20年 4月 同 自治財政局財政課課長補佐
- 平成 21年 4月 同 自治税務局固定資産税課課長補佐
- 平成 22年 8月 浜松市企画部長
- 平成 23年 4月 同 財務部長
- 平成 25年 7月 内閣府男女共同参画局総務課企画官
- 平成 26年 2月 内閣官房副長官補付 女性が輝く社会づくりチーム企画官
- 平成 27年 4月 岐阜県秘書政策審議監
- 平成 28年 4月 同 清流の国推進部長
- 平成 29年 4月 現職

現場の声を聞き、
ビジョンを語る。

副知事の仕事

県政を預かる知事の判断は極めて重い。多忙を極める中、数限りない重要な意思決定を適時適切に積み重ねていく。知事を支え、そのリーダーシップのもと、県庁全体として、より優れた行政運営を行うことができるようにすることが、私のミッションである。例示してみたい。

公務部門とはかく縦割りになりがちである。各部署を束ねる立場は、知事、副知事しかない。ポテンヒットなく、緊密な連携が図られるよう、役割を調整し、最大のアウトプットに繋げていかなければならない。

危機管理事案はもちろん、予期せぬ事案は頻発する。事案によっては、知事の指示のもと、直接統括し、業務を完遂しなければならない。昨年7月豪雨災害の対応、その検証と新たな防災対策の策定、民法制定に伴っての条例制定を含む対応…、成し遂げたときは感無量であった。

行政は決して完全ではなく、遅延し、あるいは間違いを起こすことがある。組織全体を見渡し、滞っている仕事、誤った方向に進みつつある仕事を見つけ出し、公務の停滞を防がなければならない。

国家公務員経験者として期待される役割も多い。古田知事は、全国知事会で地方

創生本部長を務めている。本部長を補佐し、岐阜県の地方創生戦略を練り、それを軸に各都道府県知事の思いを受け止めて国への提言をとりまとめる。そして、その提言が実現されるよう国との調整を重ねていく。全体の蝶番となり、自らの思いも含め、地方の思いを実現に導いた時の喜びは、その苦労を大きく上回る。

知事代理としての出番も多く、県内外の行事での挨拶、会議参加はもちろん、岐阜県の宣伝係として国際的行事へ出席することもしばしばある。

これら幾つもの副知事の役割を一つひとつ丁寧にかつ最大限に果たしたい。そう胸に刻み、今日も、全身全霊で仕事に臨む。

現場とビジョン

現場にしか解決策はない。宝の種も現場にある。現地を見て、最前線で事にあたる人の声を聞く。霞が関では多くの時間を机に向かわざるを得ないが、今は可能である。地に足の着いた実効性ある施策は現場から生まれてくる。入省以来、現在も、これを常にすべての仕事の基本に据えている。

それに止まらず、現場から真実を見つけ、ビジョンを描かなければならない。iPS細胞の発見者山中伸也氏は恩師から「研究者として成功する秘訣はVWだ」と諭された

いう。VWとはVisionとWorkhardを指し、勤勉だけでは足りず、ビジョンなきところに成功はないとの教えだ。全く同感である。これまでの経験、人脈を総動員して情報を収集整理し、職員らと議論を重ね、恐れずにビジョンを作り上げる。そのビジョンを自ら語りたい。正しいビジョンが共有されれば、成功は近い。

入省時、多くの先輩から強い人間力ともいべき人の大きさを感じた。私も既に市役所を含め地方自治の現場を多く経験し、また、地方自治に軸を置きながらも、都市公園、自然環境保全、外国人共生、女性活躍…、幅広い分野の実務を担当した。密度の濃いチャレンジングな仕事の連続であり、経験は常に次の仕事に活かされてきた。少しでも先輩達に近づけていければ幸甚である。

今、我が国では、あらゆる分野で新たなビジョンの創造と実現が求められている。皆さんの挑戦を待ちたい。



カナダ陸連との協定締結

仕事のベクトルは「未来」

学生の皆さん、こんにちは。就職活動、楽しんでますか。諸先輩方から人生経験を教えていただく大変貴重な時期ですね。

私は総務省に入省し、早20年超となります。この間、携帯料金の引き下げ等に向けた競争政策の推進、未来を見据えたビジョン策定、米留学、秘書官、地方自治体体出向、秘書課(採用、人事)など、様々なポストを経験させていただきました。一つとして例外なく、尊敬できる上司や遅い部下に囲まれ、自身の成長に繋がる勉強や発見を心から楽しむことができました。

総務省の仕事のベクトルは「未来」です。私の学生時代は、携帯電話もインターネットもありませんでした。民営化された郵政事業も当時は国営でしたし、デジタル化されたテレビもアナログでした。おそらくそのような時代があったことは想像もできないのではないのでしょうか。でも20年前のことです。その後、情報通信産業の市場規模は100兆円規模となりました。

そうです、総務省の仕事の醍醐味は、このスピード感と規模感の中で、過去の実績や経験だけでは太刀打ちできない「未来」を予測しつつ、新しく出現するサービスや技術に対応した政策を日々作りあげていくことなのです。

「わかりやすく伝える」
ことの大切さ

日本を取り巻く課題を眺めてみても、内政と外交両面で短期間に容易に解決できるものはほとんどありません。政策には、少しずつ改革を進めながらも、どこかのタイミングで身を切る覚悟の大改革を決断・断行する大胆さと同時に、細部・ミクロのきめ細やかさがますます求められてきています。

その際、政策の中身と同様に大切なことは、それらの政策を十分理解いただくことです。政策は作っただけでは意味がない。誰もが理解できる容易な言葉で「わかりやすく伝える」こと、これが本当に大切です。

現在、私は総務省から内閣広報室に出向し、官邸広報に携わっています。安全保障、外交、社会保障、働き方改革、アベノミクスなど、難題の政策について、正しさとわかりやすさのバランスを取りつつ、「伝える先の顔・年齢・性別」を思い起こしながら、伝えることに取り組んでいます。

「あれもこれも正しく伝えなければ」→(変換)→「伝えたいポイントを厳選! ※動画も作成しイメージをつかんでもらおう」。SNS・ICT時代の到来による広報戦略の改革も、今の私に求められる重要な役割です。

「前例」はない

「国民の食い扶持を作るんだ」。私がかつて秘書官としてお仕えした菅官房長官の教えです。

「前例がないのでできません」→(変換)→「前例がないのでやってみます!」。我が国の課題は前例がないことばかりです。日々、この教えを胸に深く刻みつつ、小さくても少しずつでも前例のない政策を打ち出す楽しみを味わっています。

いずれの日にか、総務省でこの楽しみをみなさんと一緒に味わえることを楽しみにしています。ここでは多くは伝えきれませんので、採用後、酒を酌み交わしながらでもゆっくりとお話したいと思います。頑張ってください!



日露の未来に向けた広報インタビュー

内閣官房内閣参事官(内閣広報室)

柴山 佳徳 Yoshinori SHIBAYAMA

- 平成 7年 4月 郵政省採用
- 平成 7年 7月 同 通信政策局総務課
- 平成 8年 7月 同 情報企画課
- 平成 9年 7月 米留学(ニューヨーク大)
- 平成 10年 6月 郵政省郵務局企画課係長
- 平成 12年 7月 同 大臣官房国際部国際政策課企画係長
- 平成 13年 1月 総務省総合通信基盤局国際部国際政策課国際機関室企画係長
- 平成 13年 7月 同 情報通信政策局総合政策課課長補佐
- 平成 15年 8月 同 自治税務局都道府県税課課長補佐
- 平成 17年 11月 総務副大臣秘書官
- 平成 18年 9月 同 郵政行政局総務課総合企画室課長補佐
- 平成 19年 10月 同 企画課課長補佐
- 平成 20年 7月 同 情報通信国際戦略局情報通信政策課課長補佐
- 平成 21年 4月 岐阜県総合企画部次長
- 平成 24年 7月 総務省大臣官房秘書課課長補佐
- 平成 25年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課調査官
- 平成 27年 7月 同 情報通信国際戦略局情報通信政策課調査官
- 平成 28年 6月 現職

「わかりやすく伝える」
ことの大切さ